



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和8年1月26日

我孫子市小中一貫教育だより
第406号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

つながる・広がる・支え合う～根戸小・6年 「高齢者疑似体験・認知症サポーター養成講座」

根戸小学校6年生がオリジナルカリキュラムの一環で「高齢者疑似体験と認知症サポーター養成講座」を実施しました。4クラスが2日間に分かれて、高齢者疑似体験と認知症サポーター養成講座を2時間構成で行いました。体育館での高齢者疑似体験では、白内障、手先の不自由さ、身体の動き、耳の聞こえ方の4つの事について実際に体験して学びました。

白内障の方の見え方についてゴーグルをつけて体感すると「この表示見えない。」「黄色は見えにくいな。」と日常目にする表示やデジタル時計の表示の見えにくさや、交通標識は目の障害があっても見えやすいことなどを感じ取っていました。体に装具をつけてお年寄りの体の動きの不自由さを体感した児童たちからは「腰が痛かった！」「歩くのも大変で、耳の聴こえも悪いから、この状態で道路を歩くのは不安だと思った。困っている人がいたら補助してあげたいです。」など、実際に高齢者の方の生活に寄り添った感想がありました。

高齢者疑似体験のおわりに、社協の方から「誰もが年を取ります。今回の体験をいかして、地域やご近所のおじいちゃんおばあちゃんを大切にしてほしいです。」とまとめの言葉があり次の認知症サポーター養成講座へと引継ぎました。

久寺家中区は福祉を柱としたオリジナルカリキュラムです。小学校6年間を通して学んだことを中学校での学びにいかしてほしいです。



つながる・広がる・支え合う～並木小・3年「福祉を学ぼう・車いす体験」

並木小学校3年生がオリジナルカリキュラムの一環で「車いす体験」を実施しました。久寺家中学校区は福祉を柱とし「つながる 広がる 支え合う～優しい街久寺家」のスローガンのもと9年間の小中一貫教育を進めています。3年生になり、実際に福祉に関わる車いすについて体験学習し、車いすの操作や車いすを使う方への理解を深め今後の生活に生かすことを目的としています。

体育館に並ぶ車いすを前に児童は真剣な表情で講師の方からの説明に耳を傾けました。車いすを押すときの操作で「グリップを握るときは5本の指を使ってしっかりと握ります。自転車のハンドルのようにブレーキには手をかけません。」と教わると、子どもたちは「そうなんだ！」と大きく頷きました。

介助者、乗る人、観察者に役割を分けて実際に体育館の中を車いすで回ります。ゆっくり進む、早歩きで進む、ぬかるみ、細道、角のある道、曲がり道のコースが準備されていました。ぬかるみを車いすで進むとき、介助者は乗っている人に「段があります。斜めになります。」など声をかけながら、力を込めてグリップを握り足を使って車いすをやや斜めに傾けます。難しい操作でしたが、みんな真剣に取り組み全員成功しました。

児童の感想では「ただ押すだけでなく、色々考えながら道を進めなくてはいけない。意外と大変でした。」とありました。体験を通して想像以上に車いすの操作は難しいこと、道が細いと通り抜けが大変なことなど学ぶことができました。これから的生活で車いすの方の気持ちに寄り添った行動ができるることを講師の方から期待され車いす体験学習は終わりました。

